



# うるま市地名散歩⑮

名嘉山 兼宏

## 安慶名 (アギナー)

### 安慶名の歩み

安慶名は、方言でアギナーという。『おもろさうし』には、「あげなわ」、または「あげな」と表記されている。安慶名グスクは、按司時代に伊波按司系の大川按司が14世紀ごろに築城したと伝えられる。このグスクは、安慶名の東北を流れる天願川中流河畔に位置する。屋良の大川城や北谷の大川城と区別するため安慶名大川城ともいわれた。

安慶名は、その城下村として尚真王が中央集権を確立するまで具志川一帯の中心的集落であった。

王国時代末期には、首里、那覇、久米村などから流れてきた士族が安慶名周辺の西原や平良川に屋取集落を形成した。

終戦後は、安慶名十字路から北東・

天願方面にかけて広大な米軍基地があつて安慶名倉庫や田場倉庫があつた。安慶名は、与勝半島へぬける県道8号線と天願・石川と北部方面とを結ぶ県道75号線が交差する交通の要地にあつて「アギナー街小」が誕生、具志川村内はもとより、隣接する町村の中心地として発展、ベニヤ通り、瑞慶山通り、アメリカ屋通りなどにぎやかな通りがあり、多くの商店、飲食店、娯楽施設が建ち並び活気を呈していた。昭和30年代の映画の全盛期には、4軒もの映画館があつた。

安慶名市街地の北東に隣接していた米軍施設は復帰後返還され、天願土地区画整理事業として市役所をはじめ、学校、住宅、商店、飲食店などが建設され「みどり町」が誕生した。旧安慶名市街は安慶名地区再開発事業によって整備されつつある。

### 安慶名の地名を考える

安慶名の地名については、次のような説がある。

一、『沖繩地名考』(宮城真治)は「キナーもしくはチナーは、(開墾地、あるいは焼畑)を意味することばである。例えば開墾地の畑をチナー畑、開墾地の芋

をチナー芋と言っているように安慶名は(開けキナー義であろうか)。即ち、その語源のアケキナーが(アキナー)となつてそれが、安慶名と表記され、その意味は開墾地であるとしている。

二、天願小学校の17代校長の森根賢徳先生(故人)は、次のように語っておられた。「かつての天願川の水量は、現在の何倍もの豊かさがあり、安慶名グスク付近まで船が航行できた筈である。その船を係留する時の(揚げ縄・アゲナワ)からアギナーになった。その意味は船の縄を係留するところ」とされている。

二説とも安慶名の歴史的背景や地理的な条件を根拠にした見解である。

私見として、アギナーのアギは陸のことで、ナーは場所・広場の庭のことで場所を表し、その語源は陸庭で意味は陸の広場ということではないか。陸の広場というのは意味がおかしい感もするが天願川河口や田場港あたりから上陸すると一帯は安慶名方面まで広原が広がる。そして安慶名グスクの頂上から見渡す一帯は大陸的な感じがし、まさに陸の庭である。さらにみどり町にあつた「前門口原」の地名はその庭(陸)に上がる場所(門口)としての地名を

残している。

ちなみに、奄美大島の瀬戸内町に「阿木名」、俗に「アキニヤ」というところがあるが、阿は丘・丘陵のこと、木名は草木の生えた場所、阿木名は「丘陵にある畑」を意味するとある「角川地名大辞典・鹿児島県」。

### 亀甲原

安慶名グスクの位置する一帯を「亀甲原」という。安慶名グスクの形状をよく見ると亀が座して、しかも頭をもたげている格好をしており、その形状から亀甲原と呼ばれた。

他に、市内上江洲にも亀甲原があり、やはりその形状から命名されたものと思われるが、ただ地元のお年寄りの話では、一帯には亀甲墓が多くあるからとのことである。

県内には亀甲原地名は多くあるが『沖繩地名総集・大城盛光 編著』を見ると「カメコウバル」「カメコオバル」「カミクウバル」「カミクウバル」など地域によっていろいろな呼び方がある。